

※ 本ニュースレターは、重工業研究会、化学工業記者会、東京繊維記者会、大阪繊維記者クラブ、紡績・化繊記者クラブにおいて、参考資料として配付しています。

NEWS LETTER

Vol.9 (2020.10.19)

工場の透明カーテンなどに使用される
軟質塩ビフィルム『アルトロン』

株式会社三菱ケミカルホールディングス

TEL : 03-6748-7140



“製造現場の名脇役” 軟質塩ビフィルム『アルトロン』 飛沫感染拡大防止用ビニールカーテンとして需要拡大

“with コロナ”を前提とした「新しい生活様式」での日常化が進む中、飲食店をはじめ対面接客が必要な金融機関や病院などでは、飛沫感染防止策として、樹脂製のパーティションが一般化しています。三菱ケミカル株式会社においても、パーティションの素材として、アクリル樹脂板『アクリライト』の需要が加速し、本年4月中旬から出荷が急増しました。

(NEWS LETTER Vol.8 参照 : https://www.m-chemical.co.jp/topics/2020/_icsFiles/afieldfile/2020/07/31/pmms_1.pdf)

また、本年4月、コンビニチェーン各社が店舗内の感染拡大防止策の一環として、レジカウンターへの透明シート設置を発表しました。翌月には、政府の専門家会議が「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」の中で、『人と人が対面する場所は、アクリル板・透明ビニールカーテンなどで遮蔽する』と感染予防の具体例を紹介。以降、緊急事態宣言解除に伴い経済活動が再開されると、スーパーマーケットやドラッグストアなどのレジカウンターをはじめ、公共サービス機関の窓口、タクシーやバスなどの公共交通機関、オフィスの間仕切りなどにも吊り下げ式の透明ビニールカーテンが使用され、今や、私たちが目にする機会の最も多い「新しい生活様式」のひとつになりました。

アクリル製のパーティションと比べると、吊り下げ式のビニールカーテンは「設置台が不要」、「高さや横幅など必要なサイズを各自で調節することができる」、「比較的 low コストで導入可能」などのメリットがあります。特に店舗レジなどでは、お客と品物のやり取りが発生するため、カウンターに一定の空間が必要となることから、高さ調整に融通のきくビニールカーテンが好まれる傾向にあります。

一方、ビニールカーテンには課題もあります。4月には大阪のショッピングセンターにて、客がライターを試しに点火したところ、レジカウンターに設置したビニールシートに引火して火災が発生。この事件を機に消防や自治体では、使用に関する注意を呼び掛けています。

こうした今般の状況の中、飛沫感染防止用のビニールカーテン素材として、工業用・建材用のフィルムやシートを製造・販売する三菱ケミカルグループのダイヤプラスフィルム株式会社（本社：愛知県 <http://www.dpf.co.jp/>）の軟質塩ビフィルム「アルトロン」に注目が集まっています。

今回のニュースレターでは、ダイヤプラスフィルム株式会社の軟質塩ビフィルム「アルトロン」をご紹介します。

■製造現場などで使用される“ニッチ”な製品

軟質塩ビフィルム「アルトロン」は、ダイヤプラスフィルム株式会社（以下、ダイヤプラスフィルム社）の主力製品です。主に工場や精密機器を製造するクリーンルームなどで使用されており、私たちの日常生活では目にする機会の少ない製品です。

同製品は、工場の間仕切りやビニールブースなどに使用する汎用タイプのほか、消防法施行令第4条の3に適合した「防災」タイプをはじめ、「耐電防災」「静電防止」「静電防災」など、ニーズに応じて各種ラインアップを揃えています。



「アルトロン」防災タイプ

《アルトロン 防災性タイプの燃焼実験》



バーナーで着火

燃え広がらない（40秒後）

着火はするが自己消火する（50秒後）

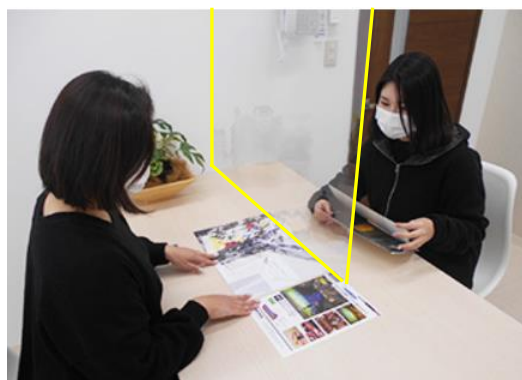
用途の一例を紹介すると、「防災」タイプは、屋内のビニールカーテンに用いて、万一火災が発生したときに延焼を防ぐほか、工場などの改修工事においては、塵や埃などの微細なゴミや工事の溶接で発生する火花から通信機器設備などの精密機器の損傷・延焼を防ぐ保護カバーなどにも活用されています。また、「静電防災」機能を有したタイプは、半導体工場などのクリーンルームの気流制御用カーテンをはじめ、静電気による精密機器への塵や埃の吸着や帯電スパークを原因とする機器の誤作動・発火防止のカバーなどにも使用されています。

■「新しい生活様式」の中、私たちが最も見かける製品に

上記の通り、これまで“製造現場の名脇役”として活躍していたアルトロンですが、その優れた性能に注目が集まり、飛沫感染防止用の吊り下げ式カーテンとしての需要が拡大。加工製品販売では、4月以降、前年同月比で数倍から数十倍で推移し、6月以降は特に防災タイプの受注が増加しています。

「新しい生活様式」では、対人接客業務における飛沫感染防止策が不可欠であり、また火災事故を契機に、消防庁から防災品の使用が推奨されるようになりました。

ダイヤプラスフィルム社では、引き続き、防災タイプをはじめとした軟質塩ビフィルム「アルトロン」を必要とするお客さますべてに供給可能な体制を構築し、新型コロナウイルス感染拡大防止の一助となるよう取り組んでまいります。



「アルトロン」の吊り下げ式カーテン使用例

本件に関するお問い合わせ先
(株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR 室
電話：03-6748-7140